

特別区協議会

- プログラム概要 : 調査研究事業・情報提供事業・普及啓発事業に取り組むすべての活動を通し、特別区(東京23区)を知り、考える
- 実習先 : 公益財団法人 特別区協議会(東京区政会館4F)
- 実習先情報 : 特別区の自治の発展を目的として設立された公益財団法人
- 参加人数 : 2名
- 学部学科 : 政治学科、法律学科
- 実習期間 : 令和5年8月17日～9月14日
- 本学担当教員 : 武田憲明(教育学科)

〇はじめに

特別区協議会は、特別区の円滑な自治の運営と発展に寄与することを目的に、特別区関係団体の執務や会議の場の提供と合わせて、特別区制度に関する調査研究、特別区に関連する各種資料の収集・提供、特別区の共同事業の一部受任などの事業を行っています。
(「公益財団法人特別区協議会 理事長のあいさつ」より引用)

〇実習内容

- 1.特別区自治情報・交流センターでの展示の企画、実施
- 2.東京区政会館エントランスホールでの企画展示のPR
- 3.特別区の課題解決のための研究会業務
- 4.講座・講演会の運営
- 5.施設見学
(千代田区立図書館、有明清掃工場、中防処理施設)

〇提案したこと、発信したこと、など

特別区自治情報・交流センターの企画展示物として、「誰一人取り残さない 特別区のSDGsの取り組み」をテーマに、SDGsの17のゴール及び特徴的な特別区の施策を絵馬にして発信した。内容や指標が明確化されている施策を抽出し、絵馬の裏面に簡潔にまとめた。気軽に手に取れる絵馬を用いたり、各ゴールのテーマカラーを前面に出したりし、SDGsを身近に感じてもらえるような工夫を凝らした。

また、特別区長会調査研究機構のYouTube動画に字幕を追加することを提案した。機構の説明は非常に具体的で、特別区に関する知識が不十分であった私たちでも理解できたが、その動画を誰もが不自由なく見られるようにするためには正確な文字起こしが必要だと感じた。このことを職員の皆さんに伝えたところ、数日後には動画に字幕が追加された。

一から新たなものを生み出したり、目上の方に改善点を提案したりするのは容易ではない。しかし、目的やターゲットを絞ることで発言しやすくなり、より良い作品に仕上げられた。



○経験したこと、学んだこと、など

特別区長会調査研究機構の「特別区における女性を取り巻く状況と自治体支援の方策」及び「少子化の傾向が顕著な特別区で有効な少子化対策」をテーマとする研究会では、社会問題の当事者の声を聴くことの重要性を学んだ。

女性の孤立化や少子化の社会問題に関し、日頃よりニュース番組や新聞の報道を通じて問題意識は抱いていたが、アンケート調査により当事者の悲痛な叫びを聞いたことで「自分ごと」として考えるようになった。いくら当事者に寄り添って解決策を考えたとしても、相手の立場に立って物事を見つめない限りそれは机上の空論に過ぎない。実際に当事者の声を聴き、相手の立場に立って考えることで、当事者が本当に求めている解決策を講じられるのだろう。

社会に出ると同僚や異なる部署の人、取引先の相手などの様々な立場の人と関わったり、ターゲットを絞って企画を考えたりする場面が多くなる。どのような場面においても、他者を理解した上で課題に取り組むことが必要となるため、社会人になる前の今から学んだことを活かしたい。

○今後の展開、今後の学び

「社会人として“働く”とは」ということを考えながら今回の実習を行った。社会人は様々な立場の相手と関わる必要があるため、相手の意見を尊重しつつ、自分の立場を踏まえた上で自分の主張を相手に伝えることが大切だと思った。

また、特別区長会調査研究機構の研究会での議論を通じて、この先の長い人生について考えるようになった。“将来何をしたいのか”を考え、各過程で必要な努力をしたいと思います。そのためにも、様々な分野に対してアンテナを張って学び続け、様々な社会問題に目を向けられる広い視野を持ちたい。

○まとめ

非常に充実した9日間の実習だった。特別区の区政と自らの生活の関係、社会に出てからの人との関わりの大切さを実感できた。今回の実習を通して得られた知識を基に、さらに様々な視点から社会問題を捉えられるようになりたい。

9日間というわずかな時間であったが、将来社会人として生きていく上で必要なことを学べた、貴重な経験をすることができた。今回の実習を通して、「これだけは達成したい」という目標ができた。上記にあるように、広いアンテナと視野で情報を収集し、知識の面でも人間的にも成長していきたい。

これからどのような人生を歩むかは自分次第である。だからこそ、後悔しないように大切に日々の生活を送っていきたい。

